

第5回公立大学法人福井県立大学評価委員会 概要

平成20年9月2日(火)

14:00~16:30

県庁中会議室

(出席者)

吉村委員長、熊澤委員、平泉委員、前川委員

(欠席者)

槇村委員

【議 事】

- (1)平成19年度公立大学法人福井県立大学の業務実績評価について
- (2)平成19年度財務諸表等の承認に対する意見について
- (3)その他

平成19年度公立大学法人福井県立大学の業務実績評価書(案)について事務局から説明があり、意見交換が行われた。

平成19年度財務諸表等の承認に対する意見(案)について、事務局から説明があり、意見交換が行われた。

【主な発言要旨】

1 平成19年度公立大学法人福井県立大学の業務実績評価について

(委員) 評価書案9頁の「ゲストスピーカーの招聘による講義」であるが、講義テーマが近視眼的である。生物資源学部の学生に対する食糧問題や海洋に関する問題など国際的なテーマの講義を聞かせるとか、学生の教養を高めるものがあるのも良いのではないかと。大学側の自己評価はS評価であるが、努力を促す意味でA評価としてはどうか。

(委員) 評価書案16頁の「後援会等との関係強化、学生の課外活動への支援」であるが、もう少し具体的に記述した方が良い。例えば、学長、事務局長、広報参与等が先進的な私立大を視察すれば良いアイデアが出てくるはずである。大学側の自己評価はS評価であるが、努力を促す意味でA評価としてはどうか。

(委員) 大学院ビジネススクールの特徴を出していくという問題意識を持つ必要がある。入学者が減少傾向ということは企業のニーズからずれているということではないか。

- (委員) 最近の学生はあまり読書をしないようだ。学生に名著を読むようにガイダンス等で指導してほしい。
- (委員) 重点研究の推進については、大学当局として研究開発の戦略を持って各教員を誘導していく必要がある。
- (委員) 地域経済研究所については、本当のシンクタンクとは問題提起機能(イシュー・レイジング)を果たすことであり、そのことをしっかりと認識してほしい。調査だけではなく提言が必要である。
- (委員) 学長裁量枠研究費については、教員から申請が上がってきて学長が裁量経費を配分するのであれば、科研費と同じになってしまうので、学長が外部有識者と相談しながら研究テーマを決定し、配分する方法の併用も検討してはどうか。
- (委員) 産業界や県からのリクエストを踏まえて研究を行うべき。大学側がそうしたニーズを汲み取るために外部有識者等のブレーンが必要ではないか。
- (委員) 小浜キャンパスの学部化については、試験研究機関と連携して大学院の充実に力を入れるべきでないか。
- (委員) 評価を給与等に反映させることは難しいのではないか。
- (事務局) 適正な評価が難しいことは理解しているが、少しずつでも反映させる努力が必要ではないかと考えている。
- (委員) 研究、教育、地域貢献といったバランスを重視することも重要だが、ある分野で優れた業績を残した教員を評価する姿勢も忘れてはならない。
- (委員) 追加の重点項目や数値目標はいつ頃出てくるのか？
- (事務局) 大学内部での検討も必要であり、1～2ヶ月はかかると思う。大学側から提出された時点で各委員にはお知らせする。

2 平成19年度財務諸表等の承認に対する意見について

- (委員長) 平成19年度の財務諸表等の承認に対する意見については、事務局案のとおり「特に意見なし」としたいが、いかがか。
- (各委員) 異議なし

以上